

# 青少年の体験活動の推進

(新 規)

平成23年度予算額

108,492千円

## 課題

### ◆現状

- 青少年をめぐる様々な問題（ニート、ひきこもり、不登校など）
- 青少年の意欲やコミュニケーション能力、規範意識等の低下

### ◆原因

- 直接体験の不足（体を動かす体験、自然体験）  
「好きな事に登ったことがほとんどない子ども」  
H10:43%→H21:52%  
H11:43%→H21:52%  
「キャンプをほとんどしたことがない子ども」  
H10:38%→H21:57%  
H11:38%→H21:57%
- 生活習慣の乱れ（夜更かし、朝食欠食）
- 希薄な対人関係（保護者の関与が少ない、地域の大人の関与が少なく、仲間との接触が少ない）

## 要旨

青少年の体験活動の推進を図るため、家庭や企業などへ体験活動の理解を求めていくための普及啓発に取り組むとともに、自然体験活動の指導者養成、体験活動の場の在り方に関する調査研究協力者会議を実施

## 背景

### ○子ども・若者ビジョン（H22.7.23）

- ◇ 子ども・若者が生き生きと、幸せに生きていく力を身につけるための取組（重点課題）
  - ・ 社会参加・体験活動等能動的な活動の充実

### ○教育振興基本計画（H20.7.1閣議決定）

- ◇ 放課後や週末の子どもたちの体験・交流活動等の場づくり
- ◇ 体験活動等の推進（特に重点的に取り組む事項）

### ●子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い（H22.5 子どもの体験活動の実態に関する調査研究（中間報告） 独立行政法人国立青少年教育振興機構）

・ 子どもの頃に「自然体験」や「友だちとの遊び」などの体験が豊富な人ほど、「もっと深く学んでみたい」といった意欲・関心、「電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずる」といった規範意識、「社会や人のためになる仕事をしたい」といった職業意識が高くなる傾向がみられた。

## 体験活動推進プロジェクト

### ① 全国的な普及啓発の実施

家庭や企業などへ体験活動の理解を求めていくための普及啓発を実施

- ・ 青少年の体験活動の必要性・重要性を広く家庭や社会に発信する。
- ・ 青少年の体験活動の推進に寄与する団体間の連携を図る。

### ② 自然体験活動指導者養成事業

自然体験活動の教育効果を高めるとともに、青少年が安全で安心な体験活動を行えるよう、その指導者を養成することにより、青少年の自然体験活動を推進【25件】

## 体験活動の推進に資する施設の在り方に関する調査研究協力者会議

我が国の青少年の体験活動を一層推進するため、その活動の場として中心となる青少年教育施設のあるべき姿や適正な配置についての調査研究協力者会議を実施

地域や家庭、企業の取組を促進し、青少年の体験活動を一層推進

# 子どもの生活習慣づくり支援事業

(前年度予算額 99,308千円)  
23年度予算額 50,085千円

**背景** 子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠など、規則正しい生活習慣が大切である。近年、子どもたちの生活習慣の乱れが学習意欲、体力、気力の低下の要因の一つとして指摘。

## 【課題】

子どもは、家庭や社会の影響を受けやすく、**夜型化**による**就寝時間の遅れが依然として課題。**

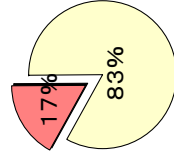
・父親と子どもの接する時間の短さ  
・夕食を家族でとる頻度の低さ

家庭や学校、地域にとどまらず  
**働く親や企業等、社会全体の問題**として理解や取組を促進する必要性  
・仕事と生活の調和のとれた社会の実現。  
・働く親や企業の意識醸成や取組の促進が必要。

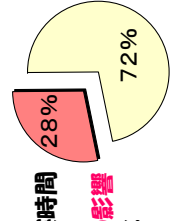
【23年度に必要な施策】  
課題等の分析に基づき、**産学官民の連携**による、**働く親や企業向けの効果的な取組方策・啓発手法の検討**

## ○就寝時間

平日**23時以降**に就寝する児童(小6)は**17%**



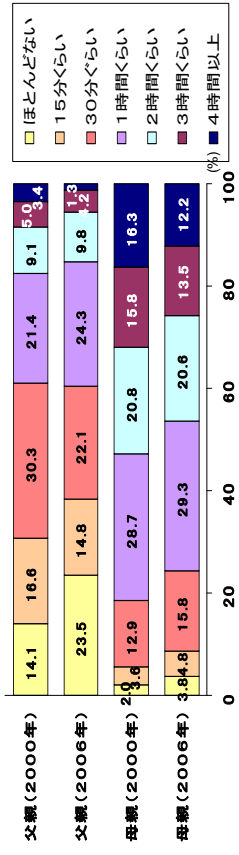
平日**0時以降**に就寝する生徒(中3)は**28%**



選り就寝時間による**成長への影響**への懸念

## ○父母が平日に子どもと接する時間

約**60%の父親が「30分くらい」以内**



## 全国的な普及啓発の実施

### ①事業検討・分析評価委員会の設置

○家庭や企業の認識度や課題についての分析、課題を抱える地域における取組の実施等を踏まえ、効果的な取組方策・啓発手法等について検討。また、併せてこれまでの成果についての検証調査を実施。

### ②関係府省及び官民連携による取組の推進

○府省や地域、団体、企業等との共同企画による取組や啓発資料作成等を実施。  
○課題を抱える地域における取組や企業の先進的取組の事例等を活用した合同検討会議を開催。

### ③地域における研究成果の普及啓発

○子どもの生活習慣や学力、体力の水準等に課題を抱える地域等において、大学や企業、行政、学校、商工会、民間団体等との協働により、これまでの学校・家庭・地域の取組手法に加え、企業CSRや社内における理解等を促進するための研究発表会を実施。

働く親や企業の意識啓発、WJTBに関する取組の促進

企業CSRとの協働による生活習慣づくりを支援

## 企業や地域の取組を促進し「早寝早起朝ごはん」国民運動の推進



### 企業とのタイアップ例



Jリーグ・Jクラブと「ファーストフードの連携した国民運動の」トレーマット全国展開

## 子どもの基本的な生活習慣の改善・定着